



平成 20 年 12 月 15 日

各 位

会 社 名 サイオテクノロジー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 喜多伸夫
 (コード番号 3744 東証マザーズ)
 問合せ先 執行役員財務経理部長 小林 徳太郎
 電 話 0 3 - 6 8 6 0 - 5 1 0 5

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 7 月 25 日に公表いたしました平成 20 年 12 月期通期の業績予想（連結・個別）を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

(1) 連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,680	△70	△60	△160	△1,802.94
今回修正予想 (B)	5,600	△20	10	△150	△1,690.58
増減額 (B-A)	△80	50	70	10	—
増減率 (%)	△1.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 12 月期)	5,851	118	137	△51	△581.38

(2) 個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,930	150	150	60	676.10
今回修正予想 (B)	5,000	210	220	70	788.94
増減額 (B-A)	70	60	70	10	—
増減率 (%)	1.4	40.0	46.7	16.7	—
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 12 月期)	5,136	225	231	100	1,132.75

(3) 通期業績予想の修正の理由

当第4四半期における当社グループを取り巻く事業環境は、当第3四半期までと同様、厳しい状況が引き続く想定しておりました。その中で、グループ全社を挙げてこれまで以上の営業努力やコスト削減努力を行った結果、本日時点において、各利益面で前回発表予想を上回る公算が高くなったことから当該業績予想を修正いたします。

連結売上高においては、前回発表予想から80百万円下回る5,600百万円に修正いたします。その構成内訳としては、日本国内で予想を上回る見込みであり、海外で予想を下回る見込みです。日本国内売上高が予想を上回る要因は、第3四半期までの傾向同様、想定以上に「SIOS Integration for Google Apps」^(*1)が好調なほか、「LifeKeeper」^(*2)や「Red Hat Enterprise Linux」^(*3)も堅調に推移していることが主な理由です。海外売上高が予想を下回る要因は、世界的な経済危機によるビジネス環境の悪化が想定以上で推移していることが主な理由です。

また、売上原価、販売管理費においては、徹底したコスト削減を継続したことが奏功し、予想よりも高い削減効果が得られる見込みです。

結果、通期業績予想における、連結営業利益は△20百万円（前回発表予想から50百万円上回る）、連結経常利益は10百万円（前回発表予想から70百万円上回る）、連結当期純利益は△150百万円（前回発表予想から10百万円上回る）に修正いたします。

個別業績におきましても、同様の理由により修正いたします。

(*1) SIOS Integration for Google Apps

Google が提供する、メール、インスタントメッセージ、スケジュール管理、ワープロ・表計算等をパッケージにしたホスティング型アプリケーションサービス Google Apps とお客様の既存の情報システムを直接連携させるサービス。

(*2) LifeKeeper

SteelEye 社の開発による、本番稼働のサーバーとは別に、同じ環境の予備サーバーを待機させ、万一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担う HA（ハイアベイラビリティ）クラスターソフトウェア。

(*3) Red Hat Enterprise Linux

LinuxOS の世界最大ディストリビューターである Red Hat, Inc. の開発による LinuxOS。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上